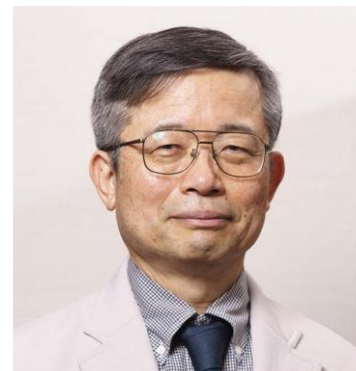


『がんの近赤外光線免疫療法』

小林 久隆 先生

(米国国立がん研究所 主任研究員・
関西医科大学附属光免疫医学研究所 所長)



我々が開発した近赤外光線免疫療法（光免疫療法）は、抗体による高い細胞選択性と光化学反応を組み合わせ、がん細胞のみを迅速に免疫原性細胞死を引き起こす。正常細胞へのダメージがほぼないため、壊れたがん細胞のネオアンチゲンを効率よく提示し、強力な免疫応答を誘導できる点が最大の特徴である。さらに、制御性T細胞やMDSCなど腫瘍内の免疫抑制細胞を局所的に除去することで、宿主免疫を大きく強化し、未照射の転移巣にも効果が及ぶ「アブスコパル効果」や再発抑制が確認されている。本療法はすでに日本で再発頭頸部がんに対し保険適用となり、2025年7月時点で約600例・1000回以上に実施されている。現在、適応拡大に向けた臨床試験が世界で進行しており、前立腺がん、膀胱がん、さらにはリンパ管奇形や老化細胞除去など非腫瘍領域への応用も期待されている。

日時：2026 年 2 月 2 日（月） 10:00 － 11:30

場所：東京科学大学すずかけ台大学会館 2階 集会室1

連絡先：化学生命科学研究所 神谷真子（内線5233）